



新聞 & WEBから資料請求の応募総数585件！

信頼性のある新聞で認知度UP！寄付について考えるきっかけに「遺贈寄付」企画

人生を全うしたあとの未来を少しでも良くするためにできること、それが遺贈寄付（いぞうきふ）です。個人が遺言によって財産の一部、または全てを公益財団法人やNPO法人、学校法人などに寄付することができるものです。

「遺贈寄付」という言葉を初めて聞かれた方も多いのではないでしょうか。実際J-MONITOR調査でも初めて知ったという方が8割弱いらっしゃいました。

今回の企画提案に「交通遺児育英会」「ジャパンハート」「スマイリングホスピタルジャパン」「世界の医療団」「日本盲導犬協会」「日本ユニセフ協会」の6団体からご出稿頂きましたが、その他ご提案した法人や団体からも、次回また企画があるのであれば是非ご提案いただきたいとのありがたいお声も頂戴しております。

紙面と中日プラスで受付をした資料請求の応募総数も585件となり、中部エリアの関心の高さを表す結果となりました。中日プラスで一ヶ月間受付をしたことでより多くの資料請求の数にも繋がりました。また企画にチャレンジし、「遺贈」という言葉をもっと多くの方に広めていきたいと思っています。

(東京本社 広告二部)

新聞 & WEBで「遺贈」について内容理解 資料請求 585件



ユニセフ 遺産寄付プログラム. あれ脱脂粉乳って... そういえば...

あなたの意思を、未来へ贈る。遺贈寄付という選択肢

遺贈寄付で未来に「笑顔」を届けませんか. 世界の医療団. NPO法人 スマイリングホスピタルジャパン. 日本盲導犬協会.

▲2020年12月12日付中日新聞朝刊 15段

「遺贈」認知度

- 内容まで知っている 4.9%
名前を聞いたことがある 10.6%
この広告を見てはじめて知った 78.8%

【読者の声】

- 遺贈寄付は初めて聞く言葉で、じっくり読んだ。こういった活動は積極的に進めるべきだと感じた。(男性29歳以下)
この広告を見て遺贈寄付を知りました。まず多くの方に知ってもらう事が大切と思っています。(男性50代)
遺贈寄付を初めて知りました。意思を尊重します。一部でも遺贈寄付したいと思いました。良いことをして心豊かに旅立ちたいと思います。(男性60代)
大きな地震災害の時に、寄付をした事がありますが、記事を読んで、世界に目を向けることが必要だなと感じました。遺贈寄付という言葉は初めて知りました。家族で話し合ってみるのも良いかなと感じました。(女性50代)
同年代の友人たちとも話してみたいと思う。(女性60代)